

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175300334		
法人名	有限会社ライジング		
事業所名	グループホームいこい		
所在地	網走市天都山54番75		
自己評価作成日	平成24年11月1日	評価結果市町村受理日	平成25年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日頃から家族とのコミュニケーションが円滑にとれるように、連絡を密に行っている。
また、利用者がホームに入居される前からの人や地域とのつながりを大事にし、入居前からの関係性がとぎれないように適切な支援を行っている。
利用者の人生観を大切に考え、失礼のない言葉がけや介助を行い、そのために常にスタッフ間で話し合いを行い、利用者が生き生きと自立した生活が送れるように配慮している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [/index.php?action.kouhyou_detail.2011.022.kani=true&JigvovsoCd=0175300334-0](http://index.php?action.kouhyou_detail.2011.022.kani=true&JigvovsoCd=0175300334-0)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成25年1月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

網走市天都山中腹の閑静な住宅地に立地した、平屋建て2ユニットの事業所になっています。玄関、事務所を挟んで各ユニットが隣接した造りになっており、利用者の交流や、職員間の協力が日常的に行われています。施設長、管理者は常日頃より利用者本位の介護の在り方を職員に浸透する様に努め、又、会社として研修参加に際して交通費や、参加費、宿泊費等の支援を行っており、職員は向上心を持って介護支援に携わると共に、積極的に外部研修に参加して知識を深めケアサービスに反映させています。全職員参加の委員会活動も行われており、虐待や、事故に関する職員アンケートを頻繁に実施し、職員自ら意識の底上げを図る等活発な活動がされています。開設10年目を迎え、事業所への地域住民の理解も深まり、行事等での交流や運営推進会議を通して様々な懸案事項への協力も得られて良好な関係が築かれています。当事業所のホームページには事業所の様子の他に運営推進会議録も掲載されており、遠方の家族にも喜ばれ、安心感に繋がっています。利用者の尊厳を大切にし利用者本位の介護を目指す基本理念に加えて、利用者に向けて『どんな時でも わたし達は そっとお手伝いします』との理念を掲げ、各ユニットリビングに大きく掲示し基本姿勢を明示しています。開放的な造りの事業所は、穏やかで、和やかな雰囲気になっており、利用者が安心して暮らしている様子が伺えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念が有り、その理念を日常生活やケアプランなどに生かし実践している。	開設時からの理念を目に付く所に掲示すると共に、施設長、管理者は会議時に理念に込められた方向性を語り、認識を共有し日々の実践に繋げています。リビングの壁には大きく利用者に向けての理念を掲示し、基本姿勢を明示しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所として町内会に加入し、利用者も一緒に参加する機会を設け、日常的にも地域の一員として交流をしている	町内会に加入し総会には施設長、管理者が、加えて新年会には利用者も参加して、事業所の理解を得ると共に、行事に招待したり、除雪の協力を得たりと日常的に交流し協力関係を築いています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から認知症についての相談や問い合わせがあればその都度対応させて頂いている			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者やサービスの状況、取り組み等を報告している。そこでの意見をサービス向上に活かしている。	町内会役員、地域包括センター職員、行政職員等が参加し、ヒヤリハット、事故報告、状況報告、行事報告、懸案事項等話し合わせ、協力関係を構築しています。議事録はホームページで公開しています。家族の参加が今後の課題となっています。	運営推進会議に家族の参加を得ていく工夫とホームページを見ることが出来ない家族とも議事録を共有し、共通の理解を得て行く事を期待します。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議等でホームの実情やケアサービスの取り組みを伝え協力関係を築いている。	運営推進会議に行政職員の参加を得ており、ヒヤリハット、事故報告や相談、情報交換と連携に努めています。社会福祉協議会にもボランティアの紹介等協力を得ながらサービスに反映しています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を受け全職員と話し合う機会を設けている。日常的にも身体拘束をしない介護をしている。また、玄関は夜間を除き施錠していない。	外部研修で得た知識を内部研修で確認しながら身体拘束への理解を深め、全職員で共有しています。不適切な言葉使いにも注意を払い、その都度職員間で話し合いの機会を持ち、身体拘束をしないケアを実践しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待対策委員会を中心に研修を受けており全スタッフが学ぶ機会をもうけ虐待を見逃ごすことのないように常に話し合っている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は後見制度について学ぶ機会がなく全職員が理解できているとはいえない。今後学ぶ機会を設け必要時活用していく		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には利用者や家族が納得して頂くために十分な説明を行い、理解・納得を図っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族の意見や要望に耳を傾けている。家族とは常に話し合う機会を設け運営に反映している。	家族の訪問時を利用者の状況報告や希望、要望を聞く機会としています。ホームページでも事業所の様子を伝え、利用者の写真を掲載した事業所便りを発行しています。年2回話し合いの機会を設けていましたが今年度は実施していない状況になっています。	家族と共に利用者を支え合う為に様々な情報を共有し、サービスに反映して行く事を期待します。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に職員の意見や提案を聞いている。また、スタッフ会議等でも聞く機会を設けている。	代表者、施設長、管理者は全体会議やユニット会議時に又、日常的に職員の意見や提案を聞き取り、運営に反映するように努めています。時には相談やアドバイスをを行い、職員を支えています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいを持って働けるような職場環境、条件の整備に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人一人の力量を把握し、研修を受ける機会を確保している。また、研修の結果を全職員に報告している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネ定例会やグループホーム部会等を通して同業者と交流している。また、勉強会などの活動を通じてサービス向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、入居後に本人の情報、状態、要望を元に家族の声を含めスタッフカンファレンスを行い、入居当初から安心してサービスを受けて頂ける体制を整えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が抱えている不安要素や疑問点を重く受け止め、納得安心して頂けるように対応し、信頼へとつながるように働きかけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応で本人と家族が今どんな支援を必要としているのかを見極めた対応している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ること、出来ないことを見極め「してあげる」「させる」介護にならないよう、支え合いながら暮らしを共にしている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にはいつでもホームに来て頂けるような環境を作り、家族との絆を大切に考え、家族にも本人の支援の協力をお願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時やホームを訪ねてこられた馴染みのひととの関係を大事にさせて頂いている。本人が行きたいところがあればできる限り出かけるようにしている	利用者の馴染みの場所を訪ねたり、行きつけの理・美容室へ出かけたり、友人の訪問を歓迎したりと利用者のこれまでの暮らしの継続支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が共に楽しく信頼し合って生活が送れるような関係作りが出来るよう支援をさせて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も気軽にホームを訪ねてこられるような環境を作り、これまでの関係を断ち切らない取り組みをしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限り本人の意向を把握し、又、思いをくみ取るように努めている。	センター方式によるアセスメントや家族からの情報を基に生活暦を把握し、日常の会話や様子から思いや意向の把握に努め、利用者本位の介護支援に取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から出来るだけ多くの情報を集め、把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を活用し、現状の把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度、スタッフ会議とモニタリングの日を決め、家族の希望と同意を得て、介護計画を作成している	家族の訪問時や電話の際に希望や要望を聞き取るように努め、定期的なモニタリングやカンファレンスを行い現状に即した介護計画を作成しています。介護計画の目標設定をより具体的に実現可能にする為の検討を行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践気づきなど個別に記録している。ケアプランを記録に載せいつでもプランに沿ったケアを実践している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特に定期受診に関しては家族にお願いしているがその時々家族の状況を踏まえ柔軟な対応をしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その時々にあった病院選びやボランティア、これまでのケアマネなどの資源を切らずに安全で豊かな暮らしを楽しんでもらえるように支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切に、納得が得られる医療機関で受診して頂いている。また往診を利用されている方もいる	希望するかかりつけ医や協力医療機関の往診など、本人、家族の意向に添った支援に努めています。看護職員や月1回の訪問看護師により、日々の健康管理や適切な医療に繋がっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中では職場内の看護職員に相談して対応している。また、訪問看護の職員とも情報交換し適切な受診をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院関係者と情報交換を行っている。治療が終了後もいつでも受け入れが出来るように相互の関係作りも出来ている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケア研修を受け、重度化した場合に供えている。家族と話し合いを持ち事業所で出来ることを理解して頂けるように取り組んでいる	重度化、終末期については現在、地域の医療体制が整っていませんが、看取りを行っていく方向で取り組んでいます。訪問看護師との連携を含めた看取り指針を作成中で、職員は外部、内部の研修を通じて知識を深め、共有を図っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対策委員を中心に事故発生時についての説明、対応方法を学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の協力を得て防災訓練を行っている。全職員で年2回の本格的な実施訓練もしている。運営推進会議に於いて地域で何が出来るかの話し合いを行っている	年2回、消防署の協力を得て、夜間想定避難訓練を実施しています。町内会緊急連絡網の作成や避難場所の確保、非常持ち出し袋が整備されています。また、運営推進会議や町内会総会等で連携強化に取り組んでいます。	今後も町内会住民の参加が得られた避難訓練の実施や役割分担を明確にすると共に、他の災害の備えについても検討することを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、今まで築き上げてきた誇りを大切に考え言葉かけにも配慮している。	職員は常に利用者を年長者として尊重し、尊厳に配慮した言葉かけや対応を心がけています。職員は会議時や研修を通じて言葉かけの大切さを確認しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望をできる限り考え自分で意志決定が出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の思いや生活ペースを大切に、その人らしい暮らしが出来るように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な入浴と毎日洗濯した清潔な物を着て頂いている。またその人らしいおしゃれが出来るように支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みや摂取状態で内容を変えている、準備や片付けなどは入居者の方と職員と一緒にやっている	利用者の嗜好等を把握し、職員が交替でメニューを作り、食材の買い物や準備、片付けなど、利用者と共に行っています。外出時の昼食や誕生日は本人のリクエストに応じるなど楽しい雰囲気になるよう心がけています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みや摂取状況を把握し、一日の中で必要な栄養や水分量をその人にあった方法で無理なく摂取して頂けるようにしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人の状態にあわせて口腔ケアの介助を行っている。夜間に関しては義歯洗浄剤で消毒している			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを細かく把握してそれぞれにあったタイミングでその都度声かけやトイレ誘導をすることで失禁を減らしていくようにしている。	排泄記録を基にパターンを把握する中で、利用者の状態に応じて適切な介助を行い、トイレでの排泄に繋がっています。外部から講師を招いておむつの当て方を学ぶと共に、職員間で検討しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は便秘時における周辺症状の現れ方を理解しており、食事内容や水分量を見直すことで、出来るだけ毎日排便して頂けるようにしている。下剤の調整も行っている			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりに入浴の希望を聞き、入浴を楽しんで頂いている。一人介助が困難になってきている方には二人介助をしている	入浴表を付けながら、週2回は入浴できるよう支援しています。ユニット毎、違うタイプの浴槽で身体機能に合わせて入浴が出来、安全、安心に配慮しています。拒否の強い時は無理強ひすることなく、清拭、足浴、シャワー浴等、適宜に行い清潔保持に努めています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活状況に合わせ、休息が必要な方には時間を決め夜の安眠を妨げないように休息していただいている			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人のファイルを作成し、薬の目的や副作用、用法や用量等を全職員が理解するようにしている。医師にも相談している			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが充実した生活を送れるように職員が本人や家族に趣味や楽しみごとなどを聞き取り、毎日の生活支援に生かしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況			実施状況		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出かけることが好きな方にはケアプランに載せ外出支援を行っている。また、市内や近郊の催し物をチェックし、個人の希望を聞きなるべく出かけるようにしている。	利用者の状態や希望に応じ、外気浴や畑作業、お花見、ドライブ、買い物等、外出機会を設け、楽しみに繋げています。冬期間も季節を感じて貰えるよう心がけています。				
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で管理している方もいるがホームで管理する人においても、支払時などは出来るだけ本人が支払いできるように支援している。					
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があればいつでも使用して頂き、電話の取り次ぎもやっている					
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は居心地よく過ごして頂けるようにそれぞれの方に合わせて椅子の配置をしている。季節感を感じることが出来るように飾り付けや空間作りに配慮している。	明るく開放感のある造りで、食堂兼居間は畳敷きの小上がりもあり、利用者の憩いの場とし、ソファも配置され、居心地よく過ごせる空間になっています。利用者はお互いのユニットを自由に行き来し、合同の行事やテレビを見たり、職員との会話を楽しむなど日々の穏やかさが感じられます。				
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方々が一緒に過ごせる居場所の確保とともに、一人でゆっくりと過ごせる空間も大切にしている。					
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた物や好きな物を持ってきて頂き、写真や自分の作品を飾るなどで居心地よい空間になっている	居室には収納スペースがあり、使い勝手が良く、利用者の慣れ親しんだ馴染みの物が持ち込まれ、安心して過ごせるよう工夫をしています。				
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが安全に生活できるように工夫し、自立した生活を送って頂けるようにしている。					